

北海道と東北 太平洋側など 5 道県やや良

8月作柄、34 都府県平年並み

8月15日現在の作況指数・作柄良否

早期米=作況指数			
徳島	97	岐阜	平年並み
高知	101	静岡	平年並み
宮崎	102	愛知	平年並み
鹿児島	102	三重	平年並み
沖縄	98	滋賀	平年並み
46都道府県の作柄		京都	平年並み
北海道	やや良	大阪	平年並み
青森	平年並み	兵庫	平年並み
岩手	やや良	奈良	平年並み
宮城	やや良	和歌山	平年並み
秋田	平年並み	鳥取	平年並み
山形	平年並み	島根	平年並み
福島	やや良	岡山	平年並み
茨城	平年並み	広島	やや不良
栃木	平年並み	山口	やや不良
群馬	平年並み	※徳島	平年並み
埼玉	平年並み	香川	平年並み
千葉	平年並み	愛媛	やや良
東京	平年並み	※高知	平年並み
神奈川	平年並み	福岡	やや不良
新潟	平年並み	佐賀	やや不良
富山	平年並み	長崎	やや不良
石川	平年並み	熊本	平年並み
福井	平年並み	大分	やや不良
山梨	平年並み	※宮崎	平年並み
長野	平年並み	※鹿児島	やや不良

(注) 早期米5県の作況指数は実測調査した結果の集計。

46都道府県の作柄は、気象データと人工衛星データから作成される予測式に基づいて良否を予測。

作柄は「やや良」が作況換算102~105相当、「平年並み」99~101相当、「やや不良」95~98相当。

※印は普通栽培。

農水省は8月31日、令和5年産水稻の8月15日現在作柄概況を公表した。3年産から8月作柄での実測調査を廃し(西南暖地の早期米等のみ実施=作況指数公表)、気象・人工衛星データ等から作成される予測式に基づく「作柄予測」に変更しており、46都道府県の作柄良否は、「やや良」が北海道と東北太平洋側3県など5道県。一方、「平年並み」は秋田・新潟をはじめ東北日本海側と北陸・関東全県を含む34都府県に上った。九州など7県は「やや不良」を見込んでいる。

田植期以降おおむね高温・多照で推移し、出穂期までの天候に恵まれた地域がある半面、「6月から7月にかけての梅雨前線や台風6号による大雨等の影響が見込まれる地域もある」と説明する。高温の影響で出穂最盛期は平年より北日本で最大6日、東・西日本でも同5日早まった。

北・東日本を中心に「史上最も暑い夏」となることが確実視され、今月も「猛烈残暑」が当面続くと予測される中、5年産はコメ品質・収量のダブル低下が心配されている。高温による登熟不良のほか、「高温不稔」レベルの異常高温(開花期35度以上など)に遭遇したり、少雨・渇水被害に直面する産地もある。歴代猛暑年(平成22年産、30年産)は高温減収も響き、ともに作況98の不作だった。

今年は北海道や北東北でも高温障害が強く懸念されているほか、作柄調査上、高温障害が全国で多発しても作況低下

には反映されにくく、豊作指数と実収量にギャップが生じる可能性もある。歴史的な苛酷猛暑における作柄推移が注目される。

なお4年産ではデータ予測の8月作柄から実測調査に基づく9月作況指数にかけて大きな変動もみられた(北海道=8月作柄「平年並み」→9月作況106、栃木=「やや良」→97など)。実測調査に基づく5年産作況指数は次回9月25日現在で初公表される。